

平成 29 年 フィリピンでの足踏みミシン ボランティア活動の報告



本村 理香子（都市・環境工学科 3 年）

1. 現地でのミシンボランティア活動

2017 年 9 月 12 日から 16 日の 5 日間、フィリピンへ渡航し、ミシンボランティア活動を行いました。

わたしは今回で 2 回目の参加です。

現地では足踏みミシンの修理とメンテナンスの仕方を英語で指導しました。修理の仕方といっても渡航前に修理したミシンを現地へ贈っているの、指導する内容は使える状態を維持することです。前回の現地でも感じたことですが、言葉の違う人たちに思っていることを伝えるのは難しかったです。たとえば、糸通しは、正しいところを正しい順番で通っていないとミシンを正常に操作することができません。



写真 1:修理の仕方を教えている様子

現地では、きれいに縫えないから直してほしいと言われました。そのときは、ミシンで壊れているところはないかを調べましたが、それでは原因解明に至らず、結局は糸通しが間違っていたことに気づきました。『糸通し』を英語でどう表現するのでしょうか。正解は **threading** でした。現地での活動前にいくらかでも勉強する時間はあったのですが、わたしはその単語を知りませんでした。その時に、とっさに出た単語は **yarn leader** でした。正解とは程遠い単語です。そして、その言葉だけではおそらく言いたいことは伝わっていません。最初から場所と順番を明確に示すことに注意しながら、もう一度糸通しをしてみました。すると、正しく縫うことができました。



写真 2:フィリピンの子供たちとの交流の様子

現地の方々からも感謝の言葉をかけてもらえて、うれしかったのと同時に、工夫すれば言葉以外でもなんとか意思疎

通ができるものだと思います。その後も、下糸が絡まったり針が急に折れたりトラブルはありま

したが、身振り手振りを駆使し、何とか無事に活動を終わることができました。

2. フィリピンの子供たちとの交流

ミシンの修理指導を終えた後は、活動現場に集まってきた子供たちと交流をしました。そこでは、日本からお土産として持参したお菓子を配ったり、風船を膨らませてあげたり、大きなシャボン玉を作ってあげたりしました。わたしは、主にシャボン玉を作って子供たちと親睦を深めました。私が活動を行った地域は貧しい地区だったので、外でも靴を履かずに裸足の子供が多くいました。以前、私たちが贈ったミシンで縫製品を作って、販売することで安定した収入が入るようになり、子供たちの未来が変わったと聞きました。それを聞いて私は、ミシンボランティア活動に参加できた事に改めて誇りを感じました。

3. 過去に贈ったミシンの活躍

実際にミシンを使った作業の様子を見学しに行ったときは、セーラー服の襟を作っているところでした。私たちが訪れた地域では、ミシンを贈る前までは農業だけが収入源だったので、季節や天候によっては収入が全くなかった時期があったそうです。しかし、私たちが贈ったミシンで、それらに左右されることなく安定した収入が入るようになり、子供が学校に行けるようになったり、病気の家族に通院させることができたり、古い木造家の壁をブロック壁に替えることができたりと、現地の方々の生活改善に役立っているということを教えてもらいました。それを聞いてわたしはこの活動をやっていて本当に良かったと思いました。



写真 3:贈ったミシンが実際に働いている様子

4. 今回の活動を通じて思ったこと

今回の活動では、ミシンの修理方法を教えて、現地の子供たちと交流し、過去に贈ったミシンが実際に利用されている様子を見学しました。私たちが放課後に行っている修理活動が、今回の活動で出会った現地の方々の生活に大いに役立っていることがわかりました。私は、大分高専に入学して、この活動に参加できて、本当に良かったと思います。これからも心を込めて、今後の活動を続けていきたいと思っています。